

福島市教育委員会定例会会議録	
1 場 所	福島市役所 9階 903会議室
2 日 時	令和5年10月4日 午前10時00分
3 出席者	教育長 佐藤秀美 教育長職務代理者 渡邊慎太郎 委員 篠木雄司 委員 高谷理恵子 委員 立花由里子
4 欠席した委員	
5 説明のため出席した職員	教育部長 三浦裕治 教育部次長兼教育総務課長 長南敏広 学校教育課長 穂積 浩 教育施設管理課長 小関 浩 教育研修課長 柏谷智也 生涯学習課長 遠藤 彰 中央学習センター館長 加藤享司 図書館長 安藤勝章 教育総務課課長補佐兼庶務係長 神野秀樹
6 議事内容及び経過	
(1) 開 会	午前10時00分
(2) 日 程	本日1日間
(3) 署名人の決定	委員 篠木雄司 委員 立花由里子
(4) 記録係	教育総務課庶務係主査 藤川哲生

1 議事	
議案第32号 福島市学習センター運営審議会委員の委嘱について	
生涯学習課長 (教育委員会定例会提出事項 P3により説明)	
教育長	異議ないため本議案を原案のとおり承認する。
2 教育長報告事項	
・令和5年9月市議会定例会議における質問及び答弁要旨について	
教育部長	(教育委員会定例会提出事項 別冊により説明)
渡邊委員	P14の給食献立情報発信支援サービス「給食ナビ」は、既製品のアプリなのか。
教育部長	既製品のアプリである。
渡邊委員	学校給食センターで対応する場合のメリットがあるとすれば、受配校の保護者等にまとめて情報の伝達や収集ができるということがあると思う。給食側の情報発信とそれに対するフィードバックや、例えば児童生徒が気に入ったメニューであったのか等、そのようなことを返信してもらうこともあり得る。あるいは福島の郷土食を給食で提供する場合には、保護者の方に対してレシピ等も含めてアナウンスするようなこともあり得る。一方的な情報発信ではなく、双方向で多少やりとりができるようなものにすると、また活かし方が広がってくると思う。そのためのアプリを新たに開発するわけにはいかないのは承知しているが、わざわざ新しいアプリではなくとも様々なツールはあるため、そのような視点を頭に置き、担当課で双方向のことが可能かどうかも含めて今後検

	討していただきたい。
教育部長	給食ナビは既製品のアプリであるが、これが最適かどうか、これ以上のものがあるのか検討していきたい。福島市では、デジタル教育を進めていくなかで保護者の方にも慣れていただき、使用中で便利さを実感していただけるよう取り組んでいきたい。委員のおっしゃるように一方的なものではなく、双方向的に使えるもので、例えばデータを蓄積できたり、情報が発信できたり、またそれによって働き方改革に繋がったり、先ほどの食べ残しの話もあったが、そういったところの改善や、食育なども含めてできるものがあれば積極的に活用していきたい。
高谷委員	1つめは、今まさにリーバーで通知関係の電子化が始まったところだが、給食ナビもいいと思ったら、今後も様々な種類のナビが出てくるのかと思った。これに関してはこちら、これに関してはあちらとなってきたような怖さがあると思った。学級だよりなどの配付方法に関しても、学校からアンケートがあり保護者の意向を聞きながら、メールで送るあるいは紙で送るなど、試験的に導入しているところで様子を見ながら工夫していると思う。電子化になっていくことで、紙ではなくなるコストダウンがあると思う。すべての子どもたちに印刷していたものを印刷しないことのコストダウンと、そのアプリを制作すること・使うことのコストで、帳尻がつくあるいは安上がりになるような仕組みがトータルでできればいいのではないかと思う。そこの試行錯誤を待ちながら、あまり大きく分断されない仕組みを作ってもらいたい。

	<p>2つめは、現在通知をメールで送ってもらっているが、各家族に1つである。そのため、家族の中や夫婦間で共有する手間がかかる。メールだと流れていくものなので、やはりアプリのように履歴が分かり後からも確認できるもので、かつ家族は1人ではないので、祖父母も含めて共有ができるものとなると高額になると思う。バランスが難しいと思いながら、大事な変化になっていると思うため、焦らず全体的な視点も持ち検討していただけるとありがたい。通知の電子化が進めば出先で何度でも確認できることになりとても利便性が高まると思う。</p>
教育部長	<p>今ほど高谷委員がおっしゃっていただいた視点が、実は私も抜けていた部分である。教育の方でデジタル化を進めようとする、給食の連絡はこちらを見なければならない、出欠の連絡はこちらを見なければならない。他はこちらというようになると、利便性と言いながら使い勝手が悪くなってしまい、そういった視点というものはとても大事だと思った。今後、教育委員会として学校通知のデジタル化を進める中で、その視点をまず持って活かしながら考えていきたいと思う。</p>
篠木委員	<p>給食センターに移っていく流れで、教育で選ばれるまちづくりの部分について、給食で選ばれるまちづくりではないが、思い出に残る給食というか、例えば子どもたちが卒業して東京の大学などに行ったときに、福島の給食はこのようなものが出たというような自慢できる給食になっていくというのはとても大切なことだと思う。作る人と食べる人が分かれてやってしまうと、そのフィー</p>

	ドバックはなかなか難しい部分がある。おいしさのフィードバックは新給食センターではどのようになるのかと思ったりする。福島第三小学校のカレーライスは、本当に自慢できる給食だと実感として思った。今現状そういう素晴らしいものがあるのでうまく活用していけたらいいと思っていた。給食の場合、美味しさ求めるのはコスト的に難しいと思いながら、それを低予算で実現しているところはとても大変であり、やはり食べる喜びを実感できることは大切である。新給食センターでおいしさの何かフィードバックというものがあったりするのか。
教育施設管理課長	新給食センターは、民間の業者に調理を委託するが、調理員や栄養士が学校に行って、このような形で給食が作られているというような食育を実施することになっている。その中で美味しさの秘訣などについてフィードバックができたらと思う。
渡邊委員	児童生徒に配付しているタブレット端末は、給食に関連するコンテンツや利用という実例はあるのか。タブレットは少なくとも児童生徒との双方向ツールとしては十分実績があるため、何かしら検討できるのかという感じもする。
教育部長	今現在、給食に関してタブレット端末を利用しているかどうかは把握していないが、先ほど篠木委員の話も聞きながら、デジタル化が進んでいく中で、給食センターなどで作る人の姿がなかなか見えないという部分は、オンラインでカバーできる部分もかなりあるのではないかと考えている。オンラインやタブレットを活用しながら、作る人・食べる人の距離が縮まるような、そしてやは

	り福島型給食は地産地消と負担者軽減ということでやっているが、
	地産地消の中には、郷土のものを食べて、ふるさとはこんなお
	いしいものができるというような郷土を誇り、郷土愛などを育む
	というような大事な分野も担っているので、そういった距離を縮
	めるような施策についても、積極的に展開していきたいと考えて
	いる。
教育長	グーグルフォームを使って子ども達にアンケートを実施するとい
	うのも考えられる。いただいたご意見をまた検討してまいりたい。
	・教育費9月補正予算の成立について
	教育部次長（教育委員会定例会提出事項 P4により説明）
	3 その他
	・今後の日程について
	教育総務課長（教育委員会定例会提出事項 P5により説明）
	① 次回の定例会の開催について
	令和5年11月1日（水）午前9時00分から市役所9階903会議室
	終了後に協議会を開催。
	② 今後の主な行事予定について
	教育長・教育委員の出席が予定されている事業を周知。
	③ 今後の定例会の開催について
	12月定例会は11月29日（水）午前9時00分から市役所9階903会議
	室で開催予定。

様式 ()

No.

以上終了 午前11時6分

記 録 藤川 哲生

委 員

委 員